

認め愛 支え愛 助け愛

愛のある国 **伊豆の国市**

一住み慣れた地域で安心して暮らすために—

市役所保健福祉・こども・子育て相談センター
☎ 0558-76-8010

第三章
認知症と共に生きる

認知症のカギは「早期発見」

「もし自分や家族が認知症になったら」頼れる人や場所がありますか。

現在、65歳以上の4人に1人が認知症であるといわれています。私たちにとって身近な病気である「認知症」ですが、困ったときに声をかけた

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域で温かく支えるための仕組みづくりを行っています。

認知症初期集中支援チーム
専門職が認知症に関する相談に応じながら訪問し、初期支援を集中的（約6カ月間）に行い、自立支援のサポートをします。

認知症は早めの発見と対応が必要で、そのために、医療・介護・福祉が一体となった「認知症初期集中支援チーム」がお手伝いを始めました。



左：櫻田修医師（認知症サポート医）
右：村川正行介護支援専門員（認知症初期集中支援チーム員）

■こんなことが気になつたらまず相談を

- ・同じ話を繰り返したり、聞いたりする
- ・物の名前が出てこない
- ・今日が何月何日かわからない
- ・財布やお金を「盗まれた」と思い込む
- ・季節に合った着衣ができない
- ・物事や身だしなみに無関心になったり、興味を失ったりする
- ・最近の出来事を忘れる

■身近な相談窓口をご利用ください

認知症や介護についての相談に応じています。



認知症ガイドブック

詳しい内容は「認知症と共に生きる」認知症ガイドブック」に掲載されています。保健福祉・こども・子育て相談センター（大仁庁舎）、各地域包括支援センター窓口、市ホームページなどで取ることができます。

相談窓口	電話番号	受付時間
地域包括支援センター	大仁地区 ☎ 0558-76-7311	平日 8:30～17:15
	長岡地区 ☎ 055-946-0692	
	葦山地区 ☎ 055-949-9213	
保健福祉・こども・子育て相談センター（大仁庁舎）	☎ 0558-76-8010	平日 8:30～17:15
認知症コールセンター	☎ 0545-64-9042	月・木・土曜日 10:00～15:00

認知症を見守る「地域の力」

私たちの周りで温かく見守る地域の人たちに、話を伺いました。

① 伊豆長岡郵便局

（配達員）

一人暮らしや高齢者の人に郵便物を手渡しする際に声をかけています。また、配達をしていて気がかりな人がいた場合は、配達職員全体で見守っています。

（窓口職員）

ゆつくりとした声かけを心がけ、大きな金額を出金する人や何度も通帳の再発行手続きに来る人は、気に留めるようにしています。認知症の症



伊豆長岡郵便局の皆さん

状と思われるパニックの状態や大きな声をあげる人に対しては、「認知症サポーター養成講座」で学んだ接し方を思い出し、落ち着いて対応しています。

② アピタ大仁店

すべてのスタッフが「認知症サポーター養成講座」を受講しています。困った様子の人には特に配慮し、丁寧にゆつくりはつきりと声かけし、対応しています。また、「生



アピタ大仁店の皆さん

活を支えるさまざまな分野での連携と協力」に関して静岡県と包括協定を結んでおり、福祉の観点からも見守っています。

③ 土屋建設（株）

工事現場の数だけ、毎日そこに立つ人がいます。野菜の直売所では、野菜の数だけおなじみさんがいます。いつでも灯る会社の明かりが、誰かの駆け込み場所になれることがあります。地元にも根付く建設会社として、いつも通りの私たちにもできることがあります。これからも地域のひとと共に、認知症の人や家族を見守っていきます。



土屋建設の皆さん

■他にもこんなサポートがあります

○認知症サポーター養成講座
認知症に対する正しい知識や対応方法を学び、認知症の人や家族を温かく見守る認知症サポーターを養成しています。市内中学校、専門学校、金融機関、交通事業者など、暮らしに身近な多くの機関で受講されています。



目印、サポーターのオレンジリング

○徘徊メール登録

市の同報無線と連動し、放送された行方不明者のお知らせをメール送信します。



QRコード

配信用登録アドレス
izunokuni-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.com

○徘徊高齢者等SOSネットワーク事前登録
事前に名前や住所、連絡先

などを登録し、1分でも早く搜索を始めるためのサービスです。登録届は保健福祉・こども・子育て相談センター、地域包括支援センター、市ホームページで取ることができます。

「気にかける」から絆をはじめよう

「ひよつとしたら認知症かもしれない」一番初めに気づくのは自分自身だと言われています。少しずつ変化していく自身への不安や悲しみは、とても大きいものでしょう。

健康な人と同じように、認知症の人にも豊かな感情と自尊心があります。優しい声かけ、ちょっとした気遣い、温かい見守りが、認知症の人の大きな支えとなります。認知症の人にも安心して暮らせる伊豆の国市を、私たちの手で育てていきましょう。

次回、第四章（11月号）では、生活支援施策を紹介いたします。